

平成 30 年度

事業所名 : グループホームきらら

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7		
自己評価作成日	平成30年11月21日	評価結果市町村受理日	平成31年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0372100974-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0372100974-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、周りの田園や姫神山などが一望出来て、1年を通して四季の移り変わりが感じられる、昔から変わらない田舎の風景が残っている場所にあります。理念にも掲げているように、職員と入居者様が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心掛け、常に入居者の方々が自分らしく生活出来るように努めています。農繁期には野菜作りや花植え、草取りが出来る畑もあり1人ひとりに合わせた活動が出来ます。また、母体が医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と訪問看護など医療支援が、充実しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を主体とした運営理念のもと、見る側、見られる側に区別しない、お互いを支えるアットホームな事業所運営を目指し、役場や地域等との繋がりを重視した協力関係を築きつつ、職員の介護への知識や技術の研鑽を重ねながら、利用者に対する介護サービスの質的な向上に努めている。特に、重症化等におけるかかりつけ医や看護師との緊密な医療連携の充実が図られるとともに、災害対策に対する近隣住民の協力体制は利用者や家族の不安の解消に繋がられている。利用者の排泄自立への支援、外出支援として全員で近隣温泉へのドライブの企画実施等々、利用者の生き生きとした生活の継続を目指して職員全体で精力的に取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホームきらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所に理念を掲示し、職員全員で共有しながら、取り組んでいる。	常に、事業所の五つの運営理念を全職員で共有し、年度ごとの事業計画の作成、報告・連絡・相談の徹底による職員の緊密な連携を核に、初心を忘れず向上心や自己研鑽に努め、思いやりの気遣い、気配りと事故防止を主眼に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の振興会にも参加させていただき、地域の体育祭や文化祭、花壇の花植えなどで交流している。	地区振興会に加入し、文化祭、運動会、花壇づくり等に参加交流を図っている。総合防災訓練で顔見知りになった農家から白菜、トウモロコシ等果菜の差し入れを受けるほか、中学生の職場体験の来訪もあり日々積極的な交流に努めている。今後は子供達と触れ合う機会も工夫したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の職場体験場所として活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の会議にて活動内容や入居者の状況報告を行い、地域の活動などの情報を得てサービス向上に活かしている。	会議は、町の包括支援センター職員、民生児童委員、自治会役員等の8人で構成し、事業所の活動状況等を議題に協議している。避難訓練の内容やヒヤリハットに関する質疑応答のほか、利用者の食事メニューを知りたいとの要望があり、事業所広報紙「きらら通信」に食事メニューを同封してお知らせするなど、質疑を有効に生かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は、事業所の応援団的な役割を担っており、今後、老人クラブの代表や認知症の知見者などをゲストメンバーとして招聘したり、事業所のイベントと抱き合わせの会議開催を工夫するなど、更なる会議の活性化を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の方にも運営推進会議に参加して頂き、現在の状況などを報告し、アドバイスを頂いたりしながら協力関係を築いている。	町の包括支援センターから運営推進会議に毎回出席を頂いているほか、常日頃から利用者、待機者に係る情報交換などを行っている。また、介護保険制度の一部改正に係る説明会や、町主催の事業所ケア会議に参加するなど、関係する一部事務組合、役場との連携が緊密に図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関など施錠を行わず、自由に入出入り出来る状態にしている。また、身体拘束をしないために研修にて具体的内容に関して、職員間で理解を深めている。	事業所の身体拘束に関するマニュアルをもとに、職員間で身体拘束しない取り組みを共有しているほか、現在、ふらつきのある利用者に対しても職員相互の目配りを強化し、センサーなどは使用していない。また、以前、椅子で居眠りしてずり落ちたヒヤリハット事案が生じた場合でも、肘掛椅子に変更したり、座る際はソファでの使用を優先させるよう職員間で話し合うなど、身体拘束をしない取り組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、職員間のコミュニケーションを図り、互いに声を掛け合える職場環境づくりに努めている。また、研修にて具体的内容も把握している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所は、対象者はいませんが、パンフレットを参考に職員全員で制度について把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、項目ごとに説明を行った後、疑問や質問が無いかを確認しながら理解、納得頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、意見や要望を受け付けている。また、年1回の利用者家族アンケートを実施し、内容を職員ならびに運営推進会議でも報告し反映させている。	年に1回郵送方式で家族アンケートを行い、要望や意見を聞いている。要望等は多くないが、事業所のお世話に対する感謝の言葉や、利用者の薬が変わった場合に教えて欲しい等の要望(直ちに対応)がある。利用者からは事業所内の行事、誕生会等は事前に教えて欲しいとの声があり、繰り返し話題にするなど工夫し、利用者の声にも迅速に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングなどで上げられた意見、要望に関して毎月の運営会議にて報告し反映させている。	毎月事業所の運営会議を開催し、職員からの意見等を聞く機会としている。会議で出された、不足した食器、カラーボックス及びレクリエーションの用具等の購入、希望休暇の事前確認などが改善されているほか、個人面談では職員の要望や本人の様子を把握するなど、常日頃から職員の意見を事業所運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の勤務状況や管理者の報告などを踏まえて、向上心を持って働いて頂けるように、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、法人、グループホーム協会、施設、地域の研修に参加出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に加入し、相互に交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を基に、本人との会話や日常生活に寄り添い、不安の無い生活を送れるように要望などを汲み取りながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の、今までの思いや困り事、不安など、随時受け付けることを伝え、傾聴、受容に努めながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族より、聞き取った内容を見極めて、適切なサービスが提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念にも掲げている通り、「共に暮らす」を、大切にし互いが助け合える関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との情報共有をしながら、共に本人を支えていく協力者として、支援計画作成時に協力内容を盛り込むことで、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過ごされてきた地域の商店街、町内に出掛けてみたり、自宅周辺へドライブに行ったり、地域の祭り見学に行き、知り合いに会ったり出来るように支援している。	馴染みのお店での買い物のついでに生家に立ち寄ったり、近隣農家の協力を得た「りんご狩り」や見慣れた景勝地の紅葉狩りにドライブしている。利用者の希望でお祭りや町の芸術際に出かけたり、家族の車に同乗して食事やドライブに外出する方もおり、利用者個々の知人や馴染みの場所への外出支援など、これまでの関係性が継続する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しをしたり、共同で作品作りを行えるように誘導しながら、孤立せずに関われるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も利用されたご家族の方から声を掛けられたり、相談を受けることがある。その都度、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から希望や要望を汲み取り、職員間で共有し、利用者の希望に添えるように検討し、実現に向けて取り組んでいる。	直接、自分の思いを話さない利用者でも、日常の会話から化粧品が足りない、髪を染めたい等の思いを受け止め、親身になって側で聴くように努めている。思いを実現することで、本人の不安や葛藤が消失し、落ち着きを取り戻し、表情が穏やかになって行くことから、利用者の情報は、申し送り等で共有し、本人の思いを介護サービスにつなげるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りを行った情報をまとめ、職員間で共有しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、1人ひとりの心身状態などを申し送りなどで情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員からの情報、ご家族からの意見や要望、ご本人の思いや希望を聞きながら介護計画を作成している。	職員2人で利用者3人を見る担当制を採っており、本人の情報や意向、介護の状況を月間報告書に記録している。それを基にケアマネージャーが介護計画の原案を作成し、家族や本人からの要望、職員への照会を経て介護プランを作成している。定期見直しは3か月ごととしているが、利用者の状況に応じて随時見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報、毎日の申し送りを密に行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時生まれるニーズに関しては、職員間で情報を共有、協議を行い対応に努めている。また、困難な事例に関しては、関係機関に相談出来る体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望や要望を把握しながら、買い物や図書館、馴染みの理容室に行けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所時に同意を得て、母体の医師が、かかりつけ医となっている。定期的な訪問診療の際に相談や助言を得て、適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者の多くは事業所の協力医をかかりつけ医としている。訪問診療や訪問看護ステーションの看護師による治療や健康管理が行なわれている。眼科等の専門医療の受診には家族に代わり事業所職員が同行するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際に相談、助言を得て、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に早期に情報提供を行い、安心して治療が受けられるように対応している。また、その後も担当看護師などと連絡を取りながら、早期退院へ支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りの実績は無いが、看取り指針を作成し、本人や家族の希望を把握したうえで、柔軟に対応出来るように取り組んでいる。	看取りに係る指針を整備しているが、経営母体が入院施設を併設した医療機関のため、利用者の状態に寄り合い、残された生活能力をぎりぎりまで支援し、自立的な生活が危うくなった時点で、かかりつけ医や家族等と相談しながら医療機関へ繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにより学習している。また、総合避難訓練時には消防署より実技指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施している。その他、年2回の総合避難訓練では、消防署員、消防団、近隣の方々にも参加して頂き、協力体制を築いている。	避難訓練は、習慣化を図るため毎月、火災、水害又は地震などを想定して実施するとともに、事前に近隣の住民にお知らせして、数人の協力を得ている。避難場所は地区の中学校や北側のスポーツセンターを予定して訓練している。備蓄品は、飲料水、ご飯、缶詰など2～3日分を備えており、不足の場合は法人本部から支援を受ける体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの状態に合わせて、年長者であることを尊重し誇りやプライバシーを損ねないように、出来る事は自力で行っていただき、最小限の介助にて対応している。	利用者のどの場面で、どう気をつけるかなど、個人の尊厳に配慮するよう職員研修等で徹底するとともに、トイレや入浴での衣類の脱着の際は、最小限の介助に留めるようにしている。特にスピーチロックや命令口調にならない丁寧な言葉使いを心がけるよう職員間での意識の共有に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望を汲み取れるように、言葉だけでなく表情や仕草などにも留意し、対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員からの押し付けにならないように、心掛けながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて馴染みの理容室へ行ったり、洋服を買いに出かけたりと、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事のときに希望食を作ったり、盛り付けや片付けを一緒に行っている。調理の際にも各自の力に合わせ、皮むき、味見、切るなどを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態や嗜好に合わせて対応している。また、定期的に栄養士のカロリーチェックを受けて、アドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて対応している。また、週2回洗浄剤を使用し、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。リハビリパンツ、パットを使用している方も居るが、声掛け・誘導などで全員がトイレでの排泄が出来るている。	事業所のトイレが2居室に1箇所の割合で設置されている。タイミングをとらえた適切な支援が功を奏して改善した利用者が3～4名おり、現利用者は布パンツ利用が5名リハビリパンツ利用が4名である。夜間のポータブル利用者もなく、転倒の危険性のある利用者にはホール近くで職員が見守り、必要の都度介助するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動、食物繊維、乳製品、水分などの摂取に配慮しながら、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴としているが、利用者の希望を聞いて、ペースに合わせた介助を行っている。	入浴は、概ね夏場は週に3回、冬場は2回の利用を予定し、午前又は午後自由な入浴としている。入浴を嫌がる利用者には、機嫌やタイミングを伺いながら言葉がけに工夫をするなど、職員間で共有し、和んだ時点を捉えて浴室に誘導し強制しない支援に努めている。時には外部の温泉を利用するなど、入浴を楽しむ支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	閉じこもりに留意しながら、生活習慣に合わせて休息を取ったり、良く眠れるように日中の活動を確保出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの情報や薬局からの情報を確認し、職員間で情報共有を図り、理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、台所、洗濯物たたみなど、個々に合わせた活動を役割として持って頂くことで、張り合いのある生活出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに紅葉ドライブに出かけたり、リンゴ狩り、日帰り温泉など、日常の会話の中から聞き取った希望に応え出かけている。	事業所の周囲は、芝生、花壇、ウッドデッキを整備し、気軽に散歩のできる環境が作られている。近くの畑では、トマト、ナス、ピーマン等を利用者と共に栽培しながら見回りも日課としている。時には、利用者全員で日帰り温泉にドライブを計画実施するなど、利用者の生き生きとした表情を引き出すような外出支援が行なわれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や買い物、行事での外出の際に、お金を所持し使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、やり取り出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁などに季節に応じた飾りを工夫して飾っている。また、居場所に愛着が持てるように、一緒に作成した作品なども飾っている。	遠く姫神山を望む共用空間には、テーブル、椅子、ソファや大型テレビが置かれ、エアコンやパネルヒーターが備えられている。利用者と共に作成した、ちぎり絵やツリーなどの作品が飾られ、季節感の溢れる環境づくりの工夫が垣間見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ観覧時は、ゆっくりソファに座ったり、テラス、庭、畳の小上がりなど、思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや思い出の品など、本人や家族と相談して自由に持ち込めることを伝えている。	居室には、ベッド、洗面台、タンス、パネルヒーター等が設置され、利用者の慣れ親しんだ日用品が持ち込まれているほか、地元商店のカレンダー、家族写真、各種イベントで撮影された記念写真が飾られている。特に、利用者の日常生活をサポートする時間割表を大判の模造紙に書き出して壁に掲示するなど、日常生活に不安を抱かせない落ち着いた空間づくりが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレには、分かり易い位置にプレートを設置している。トイレは各居室の隣にあり、使い勝手も良く、前面バリアフリーで躓かないように工夫されている。		